

第2回 学校運営協議会 記録

令和2年11月26日

1. 学校長挨拶

学校行事の報告（体育祭・文化祭等）と2学年の修学旅行変更について（コロナウイルスで三転した）

五島列島→沖縄→信州志賀高原スキー・スノーボードに変更となる。

2. 本校授業見学

① 「課題研究」第1LAN

② 「課題研究」普通教室3年2組・3組

③ 会議室にて令和元年度の課題研究発表大会金賞作品を視聴

3. 本校からの現状報告

(1) 資料説明

1回目に郵送した基本データの生徒指導（人）H31不登校生徒の人数訂正。

学校運営協議会実施要項裏面8～11の下線を追加。

(2) 本年度の生徒の様子について（1・2年生）

基本的に全学年ともコロナウイルスの影響で先生、生徒含め顔を合わせることが出来なかったことが大きく響いた。6月に入って1週ずつ生徒半分を登校させることが可能になったが、何か宙に浮いた様子（例）で今までのまだ締まった状態には程遠かった。

<1年生>やはり入学式をやってあげたかった

<2年生>校長からもあった修学旅行が二転三転した点

4. 協議

「本校で取り組む課題研究について」別紙

（課題研究担当教員より説明）

1・2年次の「社会への扉」から3年の課題研究に進めていく。

これまでから今年は2年次より「課題研究への扉」に変更してみた。

特徴として3点、(1)個人のスマートフォン、プロジェクターの積極的活用 (2)これまでの中央図書館への図書館研究を実施せず、個人が調べる内容として、各所へ出向き、個別のインタビューを実施させる計画を立てたが臨時休校により実施できなくなった、(3)各担当の先生方に恵まれた学年で積極的に拘わって頂いた。

【質疑】

Q1：発表するための指導が大切だと思うが、どの様な指導をされているのか。

A1：教員1人に対して15人程度のゼミ形式で進めている。昨年の経験では、言葉だけで伝えても解りづらいが、先生がPCを使ってパワーポイントを作成し、説明しながら一緒に拘わっていた。

Q2：パワーポイントは今や必須ポイントだが、その作成した本人がどれだけ内容を理解し、伝えることが出来ているかが大切なのでは。

A2：ご指摘の通り、内容が大切。発表のうまい子ができるということではなく、しっかり調べ、内容を理解し、一つのことを調べて意見を出す過程を大切にしている。

発表方法も、PC：スマホ：キーワード形式：紙芝居＝3：1：2：3と多様である。

意見：発表を見学でき、それぞれのテーマを発表している姿をみて、その子らしさが出ており、発表していた四名と繋がっている気持ちになれたことが非常に嬉しかった。仲間を知り、他者理解につながる。「先生と生徒が学びを通して繋がっているなあ」と感じ、探求してみても深まっていることが、学習として尊いものであり、ゼミ形式（少人数）の素晴らしさを改めて感じた。

意見：発表内容と方法のバランスが大切。ある会社の社長は、発表時にP.P.を使用させない。内容を重視している。

意見：課題研究のような授業をもっと進めて行ってほしい。「先生が一方向的に教えるだけではない。」ことの重要性を実感できた。

意見：生徒は、他生徒の発表をよく聞いている。他者理解につながるので良い。

意見：昨年、宇都宮大学へ進学したオアシス生徒もとても頑張っていますと当大学の先生から伺ったと報告がありました。引き続き、オアシス生徒の学力・進路保障の取り組みを続けてほしい。

5. 次回以降の学校運営協議会について

○第3回予定 令和3年2月4日（木）15:15